

# 幼兒學校における兩親教育

村 山 貞 雄

この發表では、幼稚園と保育所の總稱語として幼兒學校とゆう言葉を使いたく思う。インファント・スクール (infant school) の譯語として幼兒學校とゆう言葉があるが、この種の學校は、我が國では實際に行われておらないからこの言葉を使う事にした。

私がここで發表したい事は、幼兒學校における兩親教育を學問的に打ち建てようとする場合、その研究對象のうち、教育方法論に關するものに、現在缺點があるとゆう事と、この方法に關する部門の研究を向上させる端緒を得る仕方についてである。

幼兒學校における兩親教育の研究の第一は、兩親教育の價值論に關する考察である。この研究は、(一)兩親教育の價值に關する考察を土臺とし、(二)幼兒の兩親教育の重要性、(三)幼兒學校における兩親教育の重要性とゆうように思索が展開せられ、更に(四)我が國の幼兒學校における兩親教育の價值やその地域の幼兒學校における兩親教育の價值など

の特殊性まで考えられねばならない。

この文脈は、研究の態度が感情的に肯定論の上に立つ事が多いとゆう缺點があるが、我が國では中世以來發達しており、そのために外國に劣らない文獻も現れている。このようにすでに土臺ができてゐるために兩親教育の價值論をたてる事はらくである。

幼兒學校の兩親教育における研究對稱として、第二に、兩親教育の理想及び目的に關するものと、その目的が展開せられた内容に關する一聯の文脈が存在する。

即ち、兩親教育の目標として、

- 一、社會人としての兩親の資質
  - 二、家庭人としての兩親の資質
  - 三、育児者としての兩親の資質
- があり、特に第三の育児に關するものが、幼兒學校における兩親教育學の内容として擴大せられてくる。更に、この目標を、教育客體である兩親の調査や間接客體である幼兒の姿等から考察して、教育内容を決定しなければならぬ。

これらの内容のうち、どれが大切でどれがあまり大切でないかというよりは輕重に關する研究は殆ど進んでおらないが、この點を除くと育児の内容に關する研究は最も進んでおり、兩親教育學におけるこの部門の建設は、すでに壁をぬり窓をつけると言うところまでできている。ある人の如きは、兩親教育學とゆう名稱で、兩親教育の内容、特に兩親教育の育児に關する内容のみをとらえている状態である。

幼兒學校における兩親教育の研究の對稱として、第三に、教育の方法に關する文脈が存在し、兩親教育學を建設するためには、どうしてもこの部門の系統的な研究を必要とする。しかして、この文脈は基礎研究として、教育主體である教師と教育客體である兩親に關する考察を含む。即ち、先ず教育の對稱である兩親の心理狀態や社會狀態、例えば、心理的には育児に熱心で兩親教育に出席したく思うが、家事におわれるために出席できないとゆうような兩親の條件に關する考察が必要であり、次いで、教育の主體である教師の能力とひま、即ち資格や現狀に關する研究が必要である。この兩者の研究を基礎として、その上に（一）教育法（二）教育形式や（三）教育材料の用い方が研究せられねばならない。教育法とは學校教育の教授法に當る部門で、例えば母親指導の時に子供を傍においておく事の可否に關する問題などである。教育形式とゆうのはカリキュラムの事であり、例えば、次の圖表のような例である。これらはなお學習教育法面接教育法體

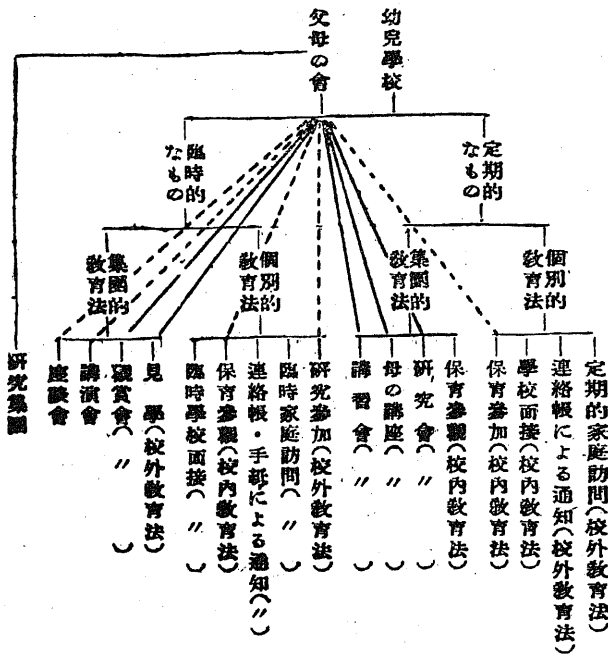
驗的教育法などに分類せられる。又教育材料とは表の下に書いてあるような例、例えば、パンフレットをいかに用いるかどうかゆう問題の如きものである。

この方法論に關するものは、以上述べた兩親教育學の部門のうち最も進んでおらず、兩親教育學を打ち建てようとする場合その土ならしえ行われておらない状態で、最も大きな弱點をなつてゐる。

この原因としては、第一に、兩親教育の基礎學である社會教育學が我が國では進んでいないために、基礎的研究が行われておらぬ事があげられる。このように云うと、この缺點は前述の價值や内容に關する研究においても同様に現われるのではないかとゆう疑問がおこるが、價值論や内容論は、基礎學として家庭教育學を要求する事が大きいのに對して、方法論は社會教育學を要求しているところに相違があり、我が國では家庭教育學が非常に進み社會教育學が進んでおらない事がこの原因となつてゐる。したがつて今後、この部面を建設するためには、社會教育及び社會教育學を進めると共に、社會教育學のすでに進んだ歐米の研究を參考とする事が條件として考えられる。

幼兒學校の兩親教育における方法論の端緒が得られない原因の第二として、現在兩親教育の形式が科學的に思索せられぬ結果系統的に分類せられず、又、研究の對稱の場となる幼兒學校で兩親教育が臨期的に一時的に行われ、一學年を通じて計畫的に行われておらない事があげられる。

幼児學校における教育方法の形式と材料の表



小	無	小	/	中	中	/	小	大	大	小	大	中	大	中	/	小	書	物
大	中	大	/	大	大	/	大	中	大	大	中	大	大	大	/	大	パンフレット	
大	中	大	大	大	大	/	大	小	大	大	大	小	大	小	大	/	大	リーフレット
小	大	/	/	中	中	/	無	大	大	無	中	無	中	/	/	掛	圖	
無	小	/	/	中	無	/	大	小	大	中	小	無	無	中	/	中	カレンダー	

即ち、各形式が科學的に考察し分類せられると、これらの分類を通して各系統の長所と短所を考察するいとぐちが得ら

れ、この特徴を理解する事によつて、幼児學校で各々の特徴を巧みに組み合わせ、系統的にこれらの形式を配列する事ができるようになる。すると教育形式を實際保育に計畫的に配列し、學年の初めからカリキュラムとして作制する事が可能になつてくる。例えば、校内で行う講演會は集團教育法及び校内教育法としての特徴を持つとして隔月におこなう事を決定した場合、集團教育法の缺點として個人差を無視し注

入的になりやすいから、そのあとで質問の時間をもうける他、個別教育法、例えば面接教育法を絶えず問にはさんだり、自發的な研究參加や保育參加を利用したり、又校内教育法からオミットせられる家事にいそがしい一部の母親に對しては、有力な校外教育法である臨時家庭訪問を強化する如きである。

又このように幼児學校で學年の初めから計畫的に兩親教育が行われる事によつて、(十頁へ續く)

私はこゝで全國の幼児教育にたずさわる諸君が、この幼児の緊張した美しさを、幼児の繪畫のなかに、最も敏感に見出すことを期待してやまない。そのためには大人の心にもまた創造的精神が働いていなければ、この仕事はむずかしいことになるだろう。大體私達大人は失敗した人生である場合が多い。このことに氣づいていない大人は幼児のよい指導者にならないだろう。

私は日本及び歐米各國の兒童畫を多數見た後に、大人の世界でいままでいわれて來た「人生において子供の時代が最も楽しい時代だ」という言葉が、火星の子供達にとつてはどうかかわらないが、今日までの地球上の人類の子供達に關する限りは、一〇〇人のうち九〇人には、あてはまらないという結論に達せざるを得ない。何故なら幼児の繪も、少年少女の繪も、兩親、其他の大人の抑壓によつてほんとうに生き／＼しているのは數少ないからである。そして歐米と日本の子供とを比較すると、これは同じ不幸のなかで、何という對比であらう。日本の子供は非常に不幸な感情にみち／＼している。歐米の子供に日本の子供に比べると幸福の花園に遊んでいるといふ位だ。

しかも日本の中等學校の子供の繪は顔をそむけざるを得ない程不幸である。小學校上級生のはそれよりもやゝ明るい、下級の子供達はまだ／＼自由なところが残つてゐる。幼児の繪になるとはるかにほつらつとして、われわれに希望をいだかしめる。幼児のこのいくらかの潑刺さをます／＼のば

すように、幼児の教育に關心をいだいておる人には、幼児の繪のなかにある生き／＼した美しさを見出して、熱心な賞讃を與えるべきである。

（五頁よりつゞく）逆にこれらの形式に關する研究が更に實際の場を得て、具體的に一つ々改良せられてゆく素地が得られる。即ち、現在では實驗學校としてのみしか場を持たないこれらの系統的な研究が、一般的に學問として伸びる社會的な地盤が得られるのである。

要するに、教育形式に關する科學的な研究を基礎として、幼児學校で學年の初めから計畫的に兩親教育のカリキュラムをたて、更に反對にこの場に依存して研究が本格的に進められる事が、現在兩親教育の最も難關となつてゐる形式論の研究の端緒をうる事になる。

以上、私は兩親教育學の建設の一端として、幼児學校における兩親教育を學問的に打ち建てるために、三つの必要な對象的契機があり、そのうち方法論が特に缺點を持つ事を述べた。しかし、急速には社會教育の改善を望みえない現在、この缺點を除くためには教育方法の各形式を系統的に考察し、計畫的に各學校で實行する事が最も着實な方法であり、且つ、この努力によつて研究がこれらの學校の場を得る事が、現在研究の向上の端緒となるとゆう事を述べた次第である。